京城新聞

經濟研究會意見書

製產的教育

學部編纂する所の新修身書皆是れ金玉の談納配當の妙味少年子弟の感想を調和するに足る間然すべきなし吾儕をして之れを評せしむ終に……普通の道德談のみ今代用ゆ可く……し而して我國の現狀に徵せば此萬……末だ民心の痼疾を救治するに足らず所ろ東西實業家傳を簡譯して農事勤勉の如き商業道德の如き器械發明の如き則ち一部の實業立志編を作りて修身書と爲すの實際に適切なるを覺ゆるなり我韓儒教を以て子弟を訓陶する二千年普通道德の說明必ずしも新教科書を待て之れを知らず苟し夫れ時代必需の新教育を普及せんと欲せば吾儕は實業思想の鼓吹を以て學部の大方針となさんことを望むものなり義に堅實なる國家を組織せんには國民の公德心其根底たらざる可からず而して我國公德心甚だ薄弱其思想に國民的聯絡なきが故に之れに望むに大建設を以てするは沙上樓閣と一般なり[illegible]發達を期すべきか吾乃以前く製產的教育に倚つて個人道德を養成するに若くはなし願くは政教二途をして其方針を一にせしめよ即ち政治に於て專ら實業發達を主眼として進むべきか如く教育に於て亦務て實業道德に向て鼓吹すべし之れを稱して製產的教育と云ふ蓋し國家の實力と國民の公德とを並に此製產二字に歸結し得て而後我韓民族の前途始て祝福するに足る

官吏任用

觀察使郡守は地方行政の主腦なり其詮考必ず鄭重研究を要す果然政府は任用法を新定し觀察使を用ゆるに新智識の經驗ある者を以てし或は日語素解ある者を以てし郡守を任用するに地方名望家を以てす之れを從來の慣習官吏を任免するに賄賂情面に由るに比す則ち制度の改善綱領の振作信に歎然すべしとす吾儕更に望蜀の言あり今より觀察使郡守を任用するに必ず實業的智識の試驗を課すべきこと是れなり今日遽かに實行を迫るに非らず期するに二個年三個年の後を以てし豫め勅令を公布し其間に於て官吏志願者をして實業的研究を積ましむべし其方法や甚だ簡易なり內部或は學部に於て產業組合法、會社法の如き或は農事改良貿易の形勢の如き者編述して一書となし民間士人をして普く之れを讀ましめ而して官吏試驗は即ち此範圍內に於て施行するなり觀察使郡守や其經歷名望の程度を詮考するは固より言ふを待たずして之れに加ふるに實業的智識を以てするは我韓將來の政務上必要の規定ならざる可からず

商工業の前途を想像するに合資株式會社組織を應用するの期蓋し遠からず否此改善を爲さんが爲めに我官民の全力を致さゞる可からず農業亦然り終には零碎の資金を融通して便利に生活し耕作する組合法を用ゐるに到るべし形勢此の如きの時我行政官吏豫め此緊要的智識を備へずんば何を以て能く人民指導の任を完ふせんや

世に萬能の官吏なし其時に適するを貴ぶのみ觀察使郡守の如き亦只韓國の今日何事か最急時務なるかを得し之れに對する實行的熱心と多少の智識あれば則ち足る矣法學通論を讀むも妨なし讀まざるも亦妨なし日本語を解するも妨げなし解せざるも亦妨なし希ふ所の者は時代精神を呼吸して實業思想を管下人民に鼓吹する喇叭手たるを以て自己の天職也と信じ得ば上乘なり韓官の任用方針既に此に在りとせば日本官憲も亦此方針の下に指導の勞を執るべきや勿論也とす(未完)

●岐阜の直訴者歸る

岐阜に於て韓太子に直訴せんとしたる曹柄國(三二)は岐阜署にて一時保護を加へ去月二十一日出發歸國の途に就かしめたるに八月卅一日釜山署巡査護送大邱に下車したるを以て同署に於ては歸途の旅費を與へ再び金泉まで汽車に乘し九月二日原籍地慶尙北道聞慶郡聞慶金龍寺に歸着せり同人は忠淸北道槐山郡七星巖の產にして十八才の頃聞慶金龍寺附屬養眞院主黃龍巖の徒弟となりたるものにして今を去る四年前該庵を逃走し鎭衛隊兵卒となり淸州に在りしも幾何ならず該庵に歸山したり之より先き金龍寺は三ヶ寺協議の上日語學校を開設して日人柳田某を聘して各寺徒弟に日語を教授し居たるか其當時曹柄國も又同生徒となり常に柳田より日本の文明狀態を聽取し心竊かに渡日の希望を抱き居たるに柳田は昨年七月同寺を去りたるを以て曹は渡日の念益々燃るが如く同地在留の日人加藤友治の紹介を得師僧黃龍巖の許可を受け金七圓を借りて釜山より渡日したるものにて其前師をなしたるは前後の[illegible]之身を留く處なきに至りたるを以て韓國の習慣に從び遂に殿下の救を乞はんとせしもの〻如し

讀者文壇

秋の夜　ひで子

掛行燈も紅に、戀の一筆濃く淡く、色さへ月の一ト雫、細めく格子五六軒、同じ作りの中二階、松の葉越しの影青く、彈く三味線の音色さへ、月に流れてしんみりと、どうやらずんど繪ならばろれよ浮世繪か、端唄めく、意氣な小路の初夜更けぬ。

北に生れて十二の春、賣られて京に人と成り、眉目美しき噂が、却て仇の籔鶯、籠は緋房の美しくも、囚はれし身の儘ならず、着る友染の振袖も、重いと泣きて、苦しい淚に濡れしも幾夜幾朝、祇園の鐘も五年聽き、其都度多くは泣きました、到々翠けた春の夕、花に雨ある景色の中、苦しい中の樂も、捨ねばならぬ羽目と成ツて、夫れからの姿と謂ふは、天晴悟つた積りで自暴持つた勝氣も手傳つて、浮世は嵐の吹く儘任む人間は唯も彼も、皮着た惡魔と、勿体無い、時には神も佛にも、惡口吐いて茶碗酒、仕体三昧仕盡して、丁度今年で十年のまだ苦が拔けず此稼業、島田の手前羞かしく、身も世もあらず泣いた曉、問はれて癪の差込ど、言紛らしたも、覺ねて何度、長襦袢の緋縮緬は、何れも淚の跡になります吁、死ねぬ此身が恨めしいと、不問語りの述懷も、灯火に蚊帳の影蒼く、凄愴とした一室の体裁、吹く風冷ゆる夜明け方、不圖視る湯呑に少さき白蝶、翼擴げて死したるも、亦一入の調和なりけり

俳句

白露集

枝撓む朝顔咲ける庵の主　松花
妻戸明けて通ふ小町や女郎花　田柿
朝顔や阿嬌の秋輕けなり　湖東
女郎花露もつ野邊の夜明かな　松花
通りぬけかねたり野邊の女郎花　三瓢
女郎花明け放したる枝折門　可醉
郭外に水乞ふもあり晒井戸　櫻水
晴れ渡る日なり金魚の泳ぎぶり　湖東
滿月の臺高麗毛の納涼かな　同

一疋の蚊に眠られぬ角力かな　同
又しても遲吟の尻をさす蚊哉　田柿
社家町や驟雨晴れやかに金魚賣　同
居殘りを蚊に起さるゝ侍女房　三瓢
神馬断て五十鈴邊秋近し　可醉
明樂を数ふる窓や女郎花　田柿
瓜畑の風は鳴りて秋近し　櫻水
草笛を馬上の旅や夏の月　可醉
炎天や一簾の影に鷺の立つ　同
九十九折峯の鐘か蟬の聲　同





(十七)　川合柳葉

寡婦た君と日に愛情濃かなる中、過ぎ逝く[illegible]

駒の足搔は早くも寒暖計の九十度を示す酷熱の頃とはなつた。

或日の夕間暮のことであつた、山川宗匠は南縁に棒縞の荒い浴衣着のまゝ席を搆へて何方からともなく吹き送る涼風を浴びながら、夫婦膳を前に、早鮎の煮付に淡泊とした胡瓜揉を肴に、れ君を前に侍らせて、晩酌を傾けつゝ、艶にして且つ粹なるれ君の浴衣着の姿を眺め、

「れ前には全く白絣は能く似るよ、然うして端然と帶を太鼓に結むだ容子は、奈何見ても中流以上の家庭に育つた令孃としきあ思へない、成程姫樣れ君と綽名を取つたも無理は無いわい。」

れ君は手にした團扇で靜かに風を送りつゝ

「何を有仰るかと思へば私の棚卸しですか、れ含しなさいよ今更のやうに、それよりかサア一つれ窓けなさいました酌を致しませう。」

「イヤ私よりかれ前に一つ遣らう。」

盃を取り上げて、冷たのを呷と干してれ君に献す。

「まあ、貴方モウ一つ飮むで然うして下さいな、へいれ酌を……。」

「あゝ溢れる、溢れる。」

と、口を盃に寄せて一口飮むで下に置き、

「時に月日の經つのは早いものぢやないかれ前が來てからモウ二ヶ月の餘になるね、しかし這麽閑靜な所で、貧亡世帶の內儀さんになつてるのは、嘸究屈で面白くないだらうね、能く辛抱して居るね。」

「貴方にも似合ない、惚れた人と暮らすなら竹の柱に笹の屋根、眞個手鍋提げるが樂みですは、私はガヤ〳〵する街中はモウ心から陶々しましたから、此家に來てから氣が伸々したやうな思ひですよ、京に田舍ありと云ひますが、眞個此處は京都の中とは思へぬほど閑靜ですことね。」

「能くもまあれ前ほどの我任意女が辛抱してると思つて、全く感心してるよ。」

と云つて盃を取上げて一息に飮干して、

「モウ一つ注いで下れんか。」

と、盃を出す、れ君は心得て燗を取上げたが余程冷たくなつて居るゆゑ。

「大層冷たくなりましたから、些どれ待ちなさい、直ぐに熱くして來ます。」

起たんさするを山川は手もて制め、

「熱い時だから、結句冷たのも宜いだらうま〻で置くが可い。」

其時表口で一聲高く、

「郵便!。」

と、訪ふ聲が聞ゑた、れ君は小走に驅け出たが、軈て一通の封書を携へ來て山川に渡した。

山川は手に取つて先づ表を眺むるに、宇治の御室雅敘から來たのであるが、手早く封を押開いて讀み下すのであつたが、偖如何なる事が書いてあるであらう。

京城論壇

經濟思想と韓人

國家の興亡盛衰は其國民の經濟思想の發達如何に係はるもの多し、經濟思想なきの國民は國家を維持する能はず、國家興亡の跡を考ふるに經濟に意を用るの國は興り經濟を度にせる國は亡ぶ、一國の隆々として勃興するや兵强く武器整ひ、文物典章燦然として目を驚かすものありと雖も、唯之れ表面に顯はれたるもののみ、其裏面には之を整備せしめたる經濟機關の整然たるものあるが爲なり、例を宇內の列國に徵するも明なり、米國の隆々たる原因何處にありや國民經濟思想の著しき發達にあり、英國が多大の海軍を有し常に歐州に於ける强國として覇威を發揮するは國民の經濟思想に富めるの力なり、獨逸が近世陸軍の强大を以て列國に雄視するも、之れ內に特種勤勉なる經濟思想に富める國民あればなり、露國が尨大なる領土を有し、强大の兵を有し、武備盛なりと雖も、常に財政困難の苦境を脫せず、比較的振はざるは政治の運用宜しきを得ざるにも因るべけれど、要は國民の思想幼稚にして從て經濟思想の發達せざるに基因するなり、西班牙の如き、葡萄牙の如き、土耳古の如き、一時は侵略政策を以て世界に雄を稱したれども、經濟思想に乏しき爲に永續する能はず、經濟思想に富める國民に壓倒せられて萎縮せるなり、經濟思想の伴はざる雄圖は總て永續する者に非ず、成吉汗は亞歐兩州を蹂躙したるも經濟的設備なき爲め忽にして亡びたり、比律賓群島の如きも其面積は我日本と稍匹敵し、人口亦二千萬を有するに拘らず、獨立自營する能はざる所以のものは全く土人に經濟思想の缺乏せるが爲なり、我日本に於ける執權者に見るも、北條家が位は僅か從五位の下にして九代に亘り執政の權を握り、民を悅服せしめたるは自ら勤儉を以て經濟思想を普及せしめたるが爲ならずや、豐臣の天下が短くして、德川が三百年を保ちたるも、其經濟設備が豐臣よりも德川の優りたるが爲なり、岡山藩及越前藩が小藩の割に振ひたるは熊澤蕃山等の指導により經濟思想の普及したるが爲なり、仙臺が大藩にして振はざりしは經濟思想に乏しく重金制度の如き固陋の策を取りて眞の經濟に顧慮せざるが故なり。

韓國の狀態を見るに國民に經濟思想なるもなし、韓國が今日の如く衰微し、國民の元氣全く消沈せるは經濟思想の發達せざるが爲なり、韓國民が政權爭奪に熱狂し、虛榮にのみ憧るゝ所以のものは經濟思想の缺乏せるが爲なり、頃者實業家の組織せる經濟研究會の意見書なるもの發表せられたり、之を讀過すれば政治團体の意見の如し如何に經濟思想の缺げるかを知るに足る、實業家の團体にして然り況や其他をや眞に韓國民を利導せんとならば法律や政治の改革にあらずして、經濟思想の普及を圖らざる可らず、渠等にして經濟思想を有するに至らば、政權爭奪の弊も虛榮僞詐の弊も除却し得べきなり、偶經濟研究會の意見を讀むに及で痛切に之を感ずるに至る、敢て卑見を述て當局者に勸告するものなり。

漢城便り

▲梁起鐸事件の第二公判は一昨十五日京城地方裁判所法廷に於て開かれ申候開廷が午前九時半にして閉廷が午後四時なりしを以て見れば審問時間の如何に長かりしかを察せられ候事と存候此日判廷に連りたるは日韓英佛人にして傍聽者席は日韓英佛獨濟人等を以て充され申候

▲此日の公判廷は一名各國人氣根競べ會とも申すべき者にて櫻田判事長の證人ベッセルに對する審問は殆んど四時間の長きに渡り候も同判事は一點倦怠の色なく諄々として進行せられたるには不尠敬服致候

▲之と同時に證人ベッセルが四時間の長き時間を立詰にて從つて問はるれば從つて答へたるは同君の精力の凡ならざるを證明致候只聊か閉口せしは小生にて判事と證人との間に挾まり馴れぬ通譯に當りたる上之も四時間立詰にて湯も茶も不飮辨當も取らず殊に便をも堪へ候併し小生も日本人に候因つて終まで我慢を仕通し候

▲大韓每日申報社長マーナム君とソウルプレス社長頭本君とが兩々相對して公判の筆記に鉛筆を走らせつゝありしは僅かに一偉觀に有之候午後一時丁度ベッセル君の證言の了りし時マーナム君の精力や盡きたりけん腦貧血を起して卒倒し後送被致候而れども頭本君は平然として午後四時の閉廷まで筆記を續けられ候

▲マーナム君と共に敗者の一人たりしは梁起鐸に候彼は判事の審問が段々六ケ敷なるに及びて頭が痛むとて答辯に逃げを張り候面白かりしはアストルハウスの主人マータンにて彼は時々滑稽なることを述べ黑田通譯を困らせ申候

▲年齡を聞きて一寸意外に思ひたるはベッセルの三十六歲とマータンの三十二歲なるに候是等若年の英佛人が何れも本國を辭し此極東に來りて新聞にてもホテルにても夫相應に經營して押しも押されもせずして世を渡るは邦人などの一寸出來ぬ事に有之候

東京電報

▲井侯の容態

井上侯は容躰佳良なりと思はるゝも醫師の見る所に依れば未だ危險の境にありと尙岡侍醫は十七日迄滯在する由なり

▲韓國拓殖委員と桂侯

韓國拓殖委員は本日桂侯と會見せしが侯は東洋協會の主義及事業等に就き詳述せり（以上十五日發）

▲樞院會議の激論

樞密院會議にて海軍懲罰令に就き激論あり結局調査委員五名を擧げ次回の會議に報告せしむることゝなれり

▲林駐伊大使の出發

伊太利駐剳大使林權助男は今朝出發赴任の途に就けり（以上十六日發）

各地電報

▲鏡城の暴風雨

一昨日强風大雨にて終日息まず昨日鏡城富寧兩郡の河川洪水にて橋梁悉く墜落し（濟漢羅南間の軍橋は落ちざりしも橋上の水二三尺に達せり）各地と交通の途全く杜絕し他の部にも電信電話の不通となれる箇所あり農作物の被害尠からず

▲長白山の初雪

會寧長白山[illegible]の高峯に白雪を見る（以上十五日鏡城發）

▲暴風雨被害

一昨日來の暴風雨にて會寧輸城間の輕便鐵道線橋梁悉く墜落し交通杜絕す本日は晴れ河水は漸次減じつゝあるも交通は二十日に至らざれば不可能の見込にて復舊工事は一ケ月を要すべし（十五日會寧發）

雜報

●第六師團の着期

第十三師團と交代すべき第六師團は十月二日釜山に上陸し三日入京夫々交代を開始せらるべく全部の終了は十一月十五日頃にして師團司令部の渡韓は十月十三日なりと

●千早艦以下の歸港

仁川近海々賊掃蕩を了りし千早艦は水雷艇と從へ昨日入港したるが今討伐の模樣を聞くに彼等海賊は軍艦の遊弋を聞くや逸早く逃走して姿を隱し少しも其影を現はさざるに至りたれば漁船及沿岸貿易船等は安して其業に從事しつゝあるに至れりと

●大臣會議と拓殖株

一昨日統監邸に於て大臣會議を開き東洋拓殖株式會社韓國側引受株に就て協議したるが其結果韓國側株主は重に土地を提供して株式に換ふることに決したれば荒井度支部次官は之れが說明の爲め一昨夜の急行列車にて東上したりと云ふ

●各大臣へ下賜金

韓國皇帝には此程總理大臣李完用氏に三千圓其他の大臣へは二千圓を御手元金より下賜相成りたりと云ふ

●明成皇后祭日

一昨十六日は明成皇后即ち閔妃祭日に付義親王以下各皇族及び承候官は昌德德壽兩宮に參內問安せり

●郡の廢合發表

京畿道楊根郡は砥平郡と合併し楊平郡を置き慶尙南道鎭海郡及び熊川郡を廢して昌原府に合併し漆原郡を廢して咸安郡に合併する旨昨日の官報を以て發表せられたり

●第三回梁起鐸公判（續）

被告梁起鐸の審問終るや裁判長は「本日は前日公判に於ける決定に基き證人ベッセル、コールブラン、マーチン、及び上海香港銀行代理店たるホームリンガー商會支配人マッケンジーの訊問をなす筈なるもマッケンジーは北韓地方に旅行中にて出廷し得ず又コールブランは出廷を拒みて來らざれば本日はベッセル及びマーチンに就て取調べんと述べ書記はベッセルの名を呼びて起立せしむ

裁判長は峯岸氏の通譯を介して證人の年齡住所國籍及び被告人と親族又は同居人たる關係なきやを尋ね此れより國債報償金詐僞取財事件に關し證人として取調ぶるを以て言ふ迄も無けれども眞實を語るべきを告げベッセルは梁起鐸事件に就ては私の名は屢々共謀者の如く世に傳へられ居るも私は喜んで出廷したるものなれば進んで眞實を語るべしと述べ夫れより左の訊問に入れる

（長）證人は何時頃より被告人を知れるか

（べ）千九百四年四月初めて此の地に來りし時梁を知れり

（長）如何なる事情より被告を知りしか

（べ）私は當時韓語の通譯を得んとし知人の紹介によりて梁を得たり

（長）大韓每日申報は何時より發行せしか

（べ）千九百四年七八月頃なりしと記憶す

（長）被告を其の社に用ひしは何時よりなるか

（べ）新聞發行の當時よりなり

（長）如何なる職務を梁に與へたるか

（べ）通譯をなさしめ或は營業事務をも掌らしめ又は一般の事務に關係せしめたり

（長）社の事務全部に關係せしめしか

（べ）全部と云ふ程には非ざるも大概の事は梁をして此れを處理せしめたり

（長）梁は一般に社の總務なりと云ふ果して然るか

（べ）然る譯に非ず

右にて梁起鐸との關係の訊問を終り裁判長は辭を正して國債報償金募集の事情に關して訊問を開始せり此の訊問はベッセルが國債報償に關し如何なる意見を有せるか彼は果して報償會が其の目的を遂し得べしと信じて此れに關係せしかを知るを得べきものなれば傍聽者も大なる興味を以て其答辯を傾聽せしも彼は不得要領なる陳述をなして一同を失望せしめたり

（長）昨年三月韓國民が日本よりの國債一千三百萬圓を償還するの目的を以て義捐金を募集したる事あり證人は此の事を知れりや

（べ）承知せり

（長）其の後大韓每日申報社が此の報償會に加入したるは如何なる趣旨なりしか

（べ）初めは我社より公衆に訴へて募集したるに非らず公衆より申し來りたるを以て社に於て取扱ひたるなり

（長）初めは不贊成にて後贊成したるか初めより贊成して取扱ひたるか

（べ）私は初めより贊成し又は後より贊成したりと云ふ關係に非ず公衆が我社に送り來りしのみ

（長）同年三月三十一日大韓每日申報に報償金取扱の廣告をなしたる事を知れりや

（べ）然り

（長）其の當時國債報償は其の目的を達し得べしと信じたりしや又此れに對して如何なる見解を有せしか

（べ）私は知りませぬ

茲に至つて裁判長は更に辭を重ね「國債報償金の事業は成功するものと思ひしか證人は果して如何なる見解を有せしか」と切り込みたるも彼は額の汗を拭ひつゝ大いに窮したる樣子にて「私は知りませぬ」と繰り返したるを以て裁判長は訊問を一轉し傍聽者は相顧みて苦笑せり

（長）其の社に集りたる金は世界に信用ある銀行又は會社に預け入れて處理すとの廣告をなしたる事を知れりや

（べ）承知せり

（長）コールブランボストウヰック銀行は世界に信用ある銀行なりと信せるか

（べ）私は然かく信ず

（長）上海香港銀行代理店も然るか

（べ）然り

斯くしてコールブランボストウヰック銀行はベッセルより「世界に信用ある銀行」と證言せられたり夫れより裁判長は申報社にての義捐金預り入及び義捐金の銀行預入方に關し訊問し[illegible]擧示して其價を說明し且金錢以外に物品の義捐ありしを賣却し其の代金は義捐金と共に預金せし旨を述べ裁判長はベッセルの提出せる帳簿を辯護人に示し嚢に提出したる謄本と同一のものなるやを問ひ辯護人は相違無き旨を答ふ此の帳簿は大韓每日申報に於て取扱ひたる報償金を集金の隨時記載せるものにして集金臺帳とも稱すべきものなれども粗末なる西洋紙を無造作に綴りたるものにして數萬圓の金錢の計算帳簿としては極めて簡單に見受けられたり（未完）

●補充憲兵の仁川着

今回新に補充せらるべき憲兵下士百三十四名は十六日仁川上陸一泊の上入京各任地に補充せらるべしと云ふ

●韓南の暴徒に就て

全羅道方面に於ける暴徒が勢力を回復して跋扈を逞ふする由に就き某當局者に糺せしに全羅道方面に於ける暴徒は概して沈靜平穩に歸し右の事實なしと云ふ

●千早艦上の祝賀會

黃海海戰紀念日は恰も日清戰爭に於ける黃海の海戰當日に相當するを以て目下碇泊中なる千早艦長は仁川官民の重なるものを軍艦に招待し紀念祝賀會を催すべしとなり

●仁川議員の態度協議

民長官選に對する仁川民團議員の態度は未だ曖昧の內にある次第なるが近々協議會を開き何分の決定をなす筈なりと云ふ

●商船の臨時增航

每年九十の兩月は輸入雜貨の增加する月なるが昨今仁川に輸入せらるゝ冬物雜貨は稍々增加し來れる傾向なるを以て大阪商船にては荷主の便宜を計り稻田丸を臨時船として大阪仁川鎭南浦安東縣を航行せしむる筈なりと云ふ

●東照丸とロイド保險

去る六月一日鍋島附近に於いて坐礁せる佐賀命令航路船東照丸は目下仁川に碇泊し居るが同船がロイド保險會社と契約せる保險額は九萬圓なるが數日前ロイド長崎支店員來仁し船主と保險料支拂に付協議したるが船主は一旦沈沒したるものなれば船体を保險會社に委し保險料全額を受くべしと云ふ保險會社側にて船体現存するを以て保險金額を支拂ふ能はずとて目下物議を醸し居れるが多分訴訟沙汰になるべしと云ふ

●輕便鐵道の不通

數日前の暴風雨にて北韓輕便鐵道淸津より會寧間は出水の爲め不通となれる由其筋へ電報ありたり

●警備電話開通

古阜より興德間は九月十一日に襄陽より長箭間は九月十二日に何れも警備電話開通せり

●仁川招魂祭擧行

來る廿日は招魂祭なるを以て仁川民團に於ては海軍墓地に於て追悼式を擧行すべく千早艦各水雷艇乘組員等も參拜すべしとなり

●靑年講演會

明十八日午後七時半より壽町日本人商業會議所に於て第二回靑年會講演會を開會する由なるが當夜の演題は下の如し「未定」英國人バックストン博士「衞生と敎育」醫學博士佐藤進

●鐵園畫伯の御前揮毫

曾禰副統監は目下副統監邸に滯留中の畫家佐久間鐵園氏を帶同し德壽宮に參內席上揮毫を太皇帝の覽に供し各大臣も參內陪觀したりと云ふ

●城津商況

咸鏡北道城津は北臨溟川を以て臨溟津に境し西北は鶴東郡細川面を以て古堡に接す西南は摩天嶺を以て端川郡に界し東は一般海に望めり而して附近巍峩たる山脈渺なく地味又肥沃にして殊に臨溟川城津間は廣莫たる水田あり土人は一般に農業に從事し商業に從事するもの城津に百五十余戶あり此地の產物は米麥大豆粟稗等にして地方人民の供給に足れるも彼等の生活は府尹其他兩班官職を奉ずるものは米食をなし其他は米、麥、粟、稗等を常食とせり又商業は到て殷盛にして紳商會議所ありて會長李在趙以下約二百名の會員ありて約千圓を基本金とし積立置き常に商業上及道路改修等に付協議し居れり又產物としては石鍋靑色黃色石にて作れる烟草入等は著名なり又甲山郡銅店より銅端川郡杜斗社方面より砂金の輸入あり元山釜山方面に輸出しつゝあり而して本邦在留民は戶數百三十戶人口男女合計四百名にして主に日韓貿易商雜貨店等にして多額の資本を投するものは到て僅少なるも何れも永住の目的あり

●牟田參謀長の上京

軍司令部參謀長牟田少將は參謀總長の命に依り昨日出發上京せられたり

●信夫理事官千早の訪問

信夫理事官宮栖署長は昨日入港の千早艦を訪問せり

●山田烈盛氏

同仁會より特派されたる同氏は都合により一昨日北京に向け急行せられたるが歸路再び當地に立寄らるべし

●コクバン氏

英總領事の同氏は夫妻同道昨朝歸英の途に就かれたり

●英國總領事代理着任

京城英國總領事代理を命せられたるレー氏は十五日來任し同夫人は昨日入京せり

●杉山憲兵少尉の歸任

地方視察中なりし京城分隊杉山少尉は十一日歸任せり

●海部馨氏

報知新聞釜山特派員たる同氏は一昨日入京せり

●近事片々

▲宇佐川中將曰く拓殖の目的は荒蕪地開拓に非ずして熟田の耕作改良を先とすべし

▲韓國は熟田の價安くして韓農夫の耕作粗なれば之を改良する事は最も急務ならん

▲日本農夫を移し實地に耕作の改良をなし適切に韓農夫を敎へ導かざる可らざる也

▲[illegible]に關する大事業經營は農事改良に次の問題等閑に付す可らず

▲以上の說は最も其意を得たるもの就中日本農夫の移住により韓農夫を導くは甚好

▲亦曰く韓國に於ける日本の基礎が鞏固不拔なるが如く樂觀せるは甚だ誤れる者也

▲是れ列國外交の變遷によりては日韓の關係に變態を來たすべしとの意味なるにや

▲果して然りとせば片々たる同職弛政に[illegible]々對韓策の進張を絕叫して止まざる所以也

▲此見易き形勢を閑却して悠々たる對韓策を採れるは甚だ以て危しと云ふ所以なり

▲伊藤公の愼重態度は撫恕政策がドウも氣に喰はぬとは實に此邊の消息を解するが故ぞかし

▲拓殖副總裁の日本側は酒匂常明氏なるべしとは近頃の世評果して然らば或は適任

▲酒匂常明氏ならば河野忠三氏に優る氏は農藝化學の泰斗にして亦實務の才幹あり

▲拓殖務省の再興說有是全く必要なり殖民政策の統一を圖る爲專門省なかる可らず

▲拓殖務省若しくは殖民省の設置の必要あるは我社の夙に唱導したる所當局悟れり

▲再興の上は大臣は後藤新平男たるべしとの說あり果して斯くなれば最適任ならん

▲曾禰子入閣して遞相たるべしとの說は今や決定せるが如く傳說さるゝが事實にや

▲伊公の態度一變したるが爲に此變勢は免る可らざる乎伊公の態度一變は些と怪し

▲一度踏み出せば後へ退かぬ決心の曾禰子終に退轉する乎入事全く意の如くならず

▲副統監は當分空位の儘置くべしとは伊公の注文なりと猪も後任は何人なるべき乎

▲嚮きには鶴原辭任して總務長官は空位の儘置くと云ひ今度は副統監と變更すとは

▲有爲轉變の世の中じやなア辭任と確定せる如く噂したる鶴原君亦た來るべしとは

▲落語家柳家小さん大磯小學校の敎員等に招れて話術の講義を望まれて喋々と辨ず

▲圓轉滑脫の舌鋒に依り滑稽を交へて巧に笑はせつゝ語る生徒等アット斗り感歎す

▲無邪氣なる小學生徒等には成程落語家口調にて面白可笑く聞せるこそ却て効能有

短篇小說

舊友（一）

斉楓作

電燈の火影薄暗い、而して頗る神經質の鈍いヨボ電車が、ヤットのこと龍山本願寺前の停留場に停車したが、男客一人下車たのみで、軈て又其の鈍い走を麻浦にと續けるのであつた。

電車から下た男は、さも寒むさうに兩手を、禿チョロの洋服のポケットに突込み古惚たハンチング帽を、前のめりに冠つてトボ／＼と電車道に沿ふて歩いて居たが、何時か人家を離れた町端に出たので、ピタリと歩を止めて、

「ヤ大變／＼、餘り考へ込んだものだから不知の間に、斯んなとこに出て仕舞つた、」

男は、四方を見廻し乍ら、元と來た道を二丁許後戾りして、途ある韓家の前から、ダラ／＼と坂を下た、幷してチョロ／＼と流れる、小川の淺瀨に架した獨木橋を渡つて草茫々たる野原に出た。

見渡す涯は、漢江河畔の曠原である、靑々と生い繁つた草叢の、生々した其の香も何處かへ消へて仕舞て、其處に宿せる諸虫の聲さへ、何時の間にやら憐を歌ふやうになつた。

「オヽ自然は、もう秋だ」

と、今更の如くに呟き乍ら、足の運びを緩めては首を傾け、凝乎と前方を見ては又歩調を早めるのである。

「社會の謂有惡魔と奮戰苦鬪の結果は、弓は折れ、矢種は盡きて、負傷の痩軀を提げ遠く渡韓はして見たもの〻、矢張り此處にも滿足の生活は得られなかつた」

男は、追憶の千思萬憫に自然と歩き止り、苦しそうに兩手で頭を押へるのである。

「アヽ人生は、遂に不可解だ」

高く空を仰いで嗟嘆した、月光はます／＼凄く照る。

男は、草叢の河岸に沿ふて、再び歩き出した、波はバタリ／＼と岸を打つ、漁歌の聲は、河面を渡つて幽に響く、宵に自然は平和なる夜の態を表はして居る。

「快い月だ、月は秋に限る、幾多の悲歌慷慨の士は、此の月に向つて熱血を歌つたのであらう」

何處からともなく、妙なる笛の音が聞へる吹奏する歌は、螢の光である。

「螢の光か、懷しい歌だ、併し僕の爲めに離別を惜んで吳れるのではあるまいか、サテも笛の主は誰であらう」

男は、フト立ち止つて、月光に透して見るのであるが、更に歌の主は見ねぬので、又ソロ／＼と歩を移した、曲は段々進んで、「あーけーてぞ、けーさーーは、わーかーれゆーくー」で譜を結んだ、其の時男は、斷崖の上に立つたのである、仰げば月は皓々と澄み渡り、俯せば銀波金波と泛ふ水面の美觀、誰か宇宙の此の神秘を語る者ぞ、男は迫はず叫んだ。

「アヽ我れ煩悶苦惱に、此の小なるハートの將に破れんとするの時、我は常に思へり我れ何をか夢み、何をか想ひつる、人生畢竟是れ夢想界の存在なるを、寧ろ死して永きに就かんか、將た生きて煩悶苦惱と鬪はんかと、而も今は最後の斷案として、死の一字ある而已」と言ひ終り、碧潭目掛て飛んだ。

●釜山の狂犬

▲十八人を咬む　▲全市を騷がす

近頃釜山に狂犬出沒し通行人に對して間々被害を加へつゝある事は記者の屢々耳にす[illegible]れより現はれ當を幸ひ狂ひ廻り其の結果僅か一時間の中に十八人を咬み爲めに一時全市街を騷がせたる椿事ありたり

サテ右の狂犬は同市守谷旅館の飼犬とかのことなるが該狂犬は現に去る一日夜釜山日報の配達人を咬み續いて他の通行人を害したれば釜山日報社にては其旨早速警察署に申告したるに警察署にては該犬を捕へ佐藤醫師をして診定せしめたる所同醫者は診定の結果狂犬にあらざる由を報告せしが併し事實は如何にしても狂犬と外思はれず案の通り這回の如き多數の被害者を出すに至りしか紛れもなき證左なるがツマリ最初の診定は病毒の潜伏期にありしを以て容易に之が病毒の在る所を發見し難く從て誤診を招きたることとなるべし該狂犬は十三日午前坂本某なる消防夫の爲めに發見され終に撲殺せられたり而して前記十八名の被害者は何れも久保病院へ收容せられたるが同院にては直ちに長崎縣立病院に打電して血淸を取り寄せ完全に血淸治療を施したりと次で警察署にては早速之が取締の方法を講じ一兩日中に一般の飼犬主に對して諭達すべしと

●朝鮮日日の演藝會

同新聞社主催の演藝會は既報の如く昨日より開催の筈なりしも大道具取立等に準備を要したるを以て一日を遲れ愈よ本日より歌舞伎座に於て伊東文夫一座に依り演せらるゝこととなれば定めし好評を呈すべし藝題及び場割役割等は左の如し

一番目　喜劇彩票五万圓　三場
二番目　十年後の京城　六場
切　舞踏元祿踊　二場

場割

（一）京城本町通り浦辻商會店頭（二）南山公園（三）江原道金鑛採掘（四）同試驗室（五）花月樓玄關（六）同大廣間大祝宴會

役割

川本準作君、頭本夫人、君江（伊藤）釘本藤二郎君、熊谷夫人、房江（本部）兒玉夫人、文之助（桂）勝丸、瑞壽、淵上貞助君（川崎）畜產會社員、森久商員（河野）秋吉富太郎君、瑞繁太郎君、高橋章之助君、赤松警部（芳川）花月お辰、浦辻雪子（吉野）山口太兵衛君、永井提義君、荒井牧場員、工藤刑事君（中村）中村再造君、梶原末太郎君、大久保雅彥君、阪本警部（吉井）梅寮櫻やんちや（中村）古追貞二郎君、岡田榮君、古堂管堂君、平田牧場員（永島）天島太郎君、竹山純平君、淺野長七君、三浦茂太郎君（山路）竹内珍彥、上杉松太郎、龜屋主人、久之助（松山）牟田口勇子、木村雄次君、篠田議一君、松浪工學士君（小泉）お玉、蝶々、梅谷店員（小林）莊子斌君、山の內支店主任、浦辻主人（酒本）韓人朴起齊、淸水文之助君、山邑支店主任、本田主人（北秋）花奴、小三久松（美咲）浦辻店員石田、岩田仙宗君、佐藤牧主人、菅原大太郎君（敷島）千歲支店主任、君子、芳江（靜浦）秀子、とんぼ、淸水店員（平野）本願寺別院輪番、丁子屋支店主任、熊谷穎太郎君、辻屋主人（杉浦）宇佐川大將、小川勝平君、浦辻勇吉、和田常一君（伊東）

●清國人の人蔘窃盜

淸國山東省登州府李相海（十八年）なる者本月八日夜開城東大門外蔘圃附近を彷徨し其の擧動不審なりしを以て蔘圃取締巡査說諭を加へたるも十三日に至り西門通りを風呂敷包を携帶し通行の擧動極めて怪むべきものあり取調べたるに贓品人蔘を携帶し居りたるを以て同地警察署に同行し訊問せしに開城を距る東方約一里の蔘圃に於て十三日朝窃取したること自白し一昨日京城なる淸國領事巡警に引渡されたり

紹介欄の開設

申込規定

一、希望者は住所氏名を詳記し本社營業部宛にて申込むべし但し氏名住所掲載を求めざる場合は特に其旨を原稿に附記するを要す

二、申込事項は交際婚姻養子緣組雇人並に雇入等諸般の人事又は土地建物其他諸般物件の賣買貸借等の希望に限る

三、掲載行數は五號活字十九字詰三行以內にて參回を超へざる範圍內に止む

右は世間の御便宜を計るの趣意より無料にて本紙廣告欄に掲載可申候に付何人にても御遠慮無く本社へ御申込有之べく候

尚本紙は調査部を新設し財產及信用等諸般の調査事項の委託に應ず

九月　京城新聞社

●韓婦人の阿片自殺

原因は夫の家出より

南部橋通二十六統六戶酒商李姓根は金姓女（[illegible]）を妻として十年以來暮らし來りしが今より十日程前に何事よりか夫婦喧嘩をなしたるが原因となり李は家出したるまゝ今日まで歸り來らざるが爲め痛く之を氣にする中一昨日夜は來客もありたれば共に酒を飲みしが其中に金姓女は十時頃室に入つたるまゝ何時まで經ても出で來らざるより來客は不審に思ひ室內に入り見ればコハ如何に阿片を飲んだものと見へ金姓女は既に絕切れ居るに驚き早速銅峴分署に屆出たれば同署にては昨朝警官出張し制規の如く檢視をなし死體は親族に引渡されたりと

●韓漁船の難破

韓人鄭致雲外六名乘組の漁船は九日午前五時頃暴風に遇ひ必死となり海岸に向け航行中他船に衝突破壞せられ乘組員五名は溺死し鄭のみ海中に漂ひ居たるを折柄航行の釜隆丸船員に救助せられ應急手當をなし溺死者は潮流急なる爲め之を收容するを得ずして同日午前十一時[illegible]して被害額は船体及び積載の穀物並に魚類等を合して五百餘圓なりと

●憐れなる韓人

東部管內往十里高光七（五十）は實家に妻子を殘し昨春より江原道江陵方面に出稼中氣の毒にも左結核性股關節炎に罹り歩行不隨の身となりしが差し當り貯金とてなければ同僚の誼みに依り旅費丈を惠みもらつて此の程漸く歸宅し久々にて妻子に對面せんとせしに妻は不貞にも夫の留守中ある男と仇し情を結び家財道具を賣り飛ばして何れへか出奔せし由近所のものより聞きしかば同人は大に驚き其の趣警察署へ屆け出でしかば警察署にては非常に氣の毒に思ひしが兎も角も病氣の身体では困難ならんと大韓醫院に入院治療方を照會せしに同醫院にては差し結め病室の明き室なきより謝絕せしかば已むなく漢城府に保護方を依賴せしに同府にても不可なりとの返答なるより今は警察署にても困じ居しが幸ひ署員一同の惻深き盡力にて金品物を惠まれ實家に送還されたりといふ

●慈の涙

釜山居住汽船水夫禾明長（三十）は曩きに横濱に於て汽船に乘り遲れて下の關まで徒歩するの止むなき場合となりしが懷中は無一物とて旅費に窮し居たるを途中各地の慈善家に惠まれつゝ漸く十一日午後八時頃姫路市龜中橋詰派出所に辿り附きしが元來言語の通せざるより食を需むるに困じ空腹に堪へず最早一歩も進まぬ疲勞の体を市內龜中內新町御料理店堀田支店の主人及び同市博勞町大多萬藏の兩名が目擊し同情の念にかられて充分の食事をさせ旅費として金一圓つゝ其他雨具何くれとなく旅行用具の物品を惠與せし所言語は通せざるも禾は雙眼に熱涙を浮べて感謝の意を表し居たるが地理には元より夜間の旅行に[illegible]東無きを察して特に夜宿泊せしめ前記兩名が[illegible]慈善家の同情に訴へし所十二日午前中に金六圓四十八錢の義捐を得汽車汽[illegible]船[illegible]に餘りありしかれは無限[illegible]足と感涙に咽び午後二時五十一分發にて下關驛へ向ひ出發したるが堀田等は尙は釜山までの乘船切符を購與したりとは近頃奇特のことゝいふべし

●隧拾場に小兒の死體

一昨日午後四時頃光熙門派出所の巡査が竹洞下の塵芥捨場附近を巡廻の際同捨場に小兒の死體あるを發見し此旨銅峴分署に報知せしより同分署よりは趙、徐兩警部及び小島部長は醫師と出張の上調査せしに小兒は生後三日を經過せし位のものにて葬式に困り斯く捨てたるものならんと

[illegible]一昨[illegible]木村劇へ[illegible]廿歳位と思はるゝ一人の美人フランネルの單衣に紅葉を織出した帶を結び言葉づかいさへ東京訛なるがそも此の美人は如何なる素性のものなるにやソレに年頃同じ廿歳位の書生体の男四名を引きつれての見物態で十二時のハネの拍子木と共に歸りたるが此の女こそ日の出町切つての別嬪娘のお蝶さんとなん呼ぶ腕利きの女なりとか木戶番は語り居れり

●女郎と仲居の魂膽

新町第一樓に本年の三月頃より身を沈め源氏名を左近とかへる關東生れの女郎あり此の女郎にはいと溫順なしく裝ひ居れど其の實ナカ／＼の阿婆摺にてソレに御面相の程も餘り感心せざれどソコがツマり女郎の癖とて來る客毎に無心をふき掛けては何程かづつの金を絞り上げ居りしが現に一昨夜九時半頃二十二三の男と二十四五の男とが同樓に押し登り一人は左近を敵娼として僅か一本のビールに醉ッ拂ひ四方山の世間話をなし居りしが軈て十二時も過ぎたれば客は床に就きしに如何なる譯にや左近は床に入らず何事か仲居と密々と話し居りしを客はソレと感付きて滿闇の中で聞き居りしが其の話しの要領は彼の客はシミツタレにてボチを打たず何んとか姐さんよりボチを打つて與るゝやう頼みますわとの事なるより客は非常に立腹し早速仲居を呼び付けて其の敵娼の不都合を詰りしに仲居は此の話を聞かれしを意外に思ひ平に女郎の不都合を謝せしが其の客は仲居も同じ腹にて影へ廻りて却て其の客の惡口を吐きしより客はます／＼立腹し夜の引明くるを待つて早速歸宅せしとかいふ振られ客の投書も偶には載せてやらねば腹癒せもならざるべし

同可娛欄（二）

魚友　痴史

●一口噺し

▲甲「熊谷は民長官選派か非官選派か何方[illegible]

[illegible]二た心ありと……

▲貴婦人「桂さんは今度化粧品に課税するさうですが酷いですチ。ハイカラ男「ナアニ大丈夫です僕が反對意見を主張しますから……

●天氣豫報（自十六日午後六時至十七日午後六時）

（十六日午前十一時京城測候所）

●解警　警戒を解く

東の風晴後曇

十六日午前六時各地氣象概況　支那東海及渤海附近に低氣壓現はれ前者は北に後者は北東に進行せんとするもの〻如く全國東風吹き概ね曇天にして釜山及元山に降雨せり

▲無料紹介欄▼

電話讓渡　呼安き番號格安　社內坂

中學卒業生　商業見習の爲め小僕代用に雇はれ度　姓名在社

十七八歲の小僧雇入れたし　店名在社

瓦貸朝鮮家屋高價讓受たし（所在地間數價格乞通知）　京城本町七丁目第一百十八番戶　渡邊生

夜具蒲團格安の中古上等品拾枚程賣却したし希望者は下名へ　市內旭町一ノ五四　小谷

當年二十二才の男壹百圓持參養子に行きたし　姓名在社

被雇度　年齡廿一才敎育有り太田或は開城に於ける雜貨店に被雇度し　姓名在社

求妻　月收百三十圓の四十男係累なし血統正しく体健品位あり相當敎育ある婦女あらば結婚を望む　姓名在社

最も可憐境遇に在る家の養子か亦これと同等の廿歲前後の妻を持たし持參月給卅圓品行方正健全血統正しきのみ先方血正望　姓名在社

福岡生れの女緣談の儀に付き南大門外テエチ君其の他の諸君より御照會の處同女は第一回御照會の者へ紹介濟なり　係

年廿一才高等女學校卒業海軍將校未亡人求良緣但し再緣子供ありても不苦　姓名在社

熊本生れ年十九才の女普通敎育あり容貌十人並体格壯健血統正しき者相當の商家へ緣付たし　姓名在社

年廿三才の男朝鮮語に委しき者月俸六十圓以上にて雇はれたし　姓名在社

一貸家　但し空地參拾坪附にて貸し渡し度し　明治町　櫻井時計店

年齡十七高等小學及補習科卒業夜間勉學し得る所に雇はれたし　氏名在社

割烹 富本半平の身上(七)

此の家民中といふ割烹が厶いましたが此割烹が例のデモでお客を取り搾くといふよりは仲間をねだつて幾程かに仕様と心掛けるやァでしたが或晩の事先の櫻井善孝さんが新内節のうまいれせきといふ藝妓と今の角海老樓の裏にあつた出過茶屋松吉に居るのを何處を如何かぎつけ出したか此奴只は置かれねわと民中ノコノコと松吉に出掛け女中や女將にれ座敷へ往つちアいけないよといはれるのを何爲遊師匠の家から言傳を頼まれて來たのだからと其場を胡魔化し此處だといふ座敷の襖を開け御免なさい……と謂ひながら這入らうとすると男女は口說の眞ッ最中といふのです先す普通の者なら此体を見て此りやア飛んだ失禮とか……何かいつつて引き下るのが當然なんで厶いますが割烹を取り捲く位のヤツで何處までも押が強く出來上つてる男だつたからソンナ事には委細頓着無くヤア此りやアれ樂みが厶いますネ……此体たらくを見せられちやア只は歸られねわ師匠何程か御奮發なさい……とピッタリ座つた儘ナカナカ動かばこそ……

……善孝さんも飛んだヤツに踏ん込まれたとは思つたが此れ迄度々何程宛か與れてやつてるのでツウツウは出したく無く殊に今夜などは此方の弱味につけ込んで來やがつたナといふ氣が出ましたから猶のこと半片の錢だつてやり度くない其處で何といつても今夜は駄目だからサアサア早く歸るが宜いと手きびしく極めつけるとソンナ事をいは無いで……民中は性こりも無くがみに掛るので厶います餘りの事に善孝さんも腹にする氣ねェ、五月蠅い駄目だといつたら駄目なんだ何時もながら乞食染みた野郎だ……早く歸らねわかよと怒鳴りつけたので民中もモウ此れ迄と思つたからやア仕方が無いから歸ると致しましよう……がれ宅の女房まではキット御注進と出掛けますから其時になつて怨みの無い樣に……と皮肉をいつて立ち掛ける善孝さんは此事を我家へ知らされては事だとは思つたが行き掛りでヘン如何とも勝手にするが宜いやと強く出てトウトウ其の晩は民中を追ッ返して仕舞いました

翌朝になつて善孝さんが歸らうとすると如何したものかれせきや自分の下駄が片ッぽ宛ほか下駄箱に這入つて居ないのです變な事があるもんだとは思つたが仕方が無いから松吉から代りの下駄を借りて我家へ歸り今歸つたよと女房の前はれ座敷で遲くなつた体にして胡魔化し長火鉢の向ふに胡座をかいて煙草を二三ぷく呑んで居るとヘイれ早うムいますと民中が這入つて來たのです朝ッぱらから碌でも無いヤツが來たナと何時に無く不愛憎に構ねて居ると師匠れ前さんに是非買つて頂きたいものがあるのですが……と持つて來た布呂敷包の結目を解き始めるのです



●新聞料 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金[illegible] ▲三ヶ月[illegible]
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢 ▲特別[illegible]
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城西小門 京城新報社 電話六六三番